

令和3年度「志」特別選抜 入試問題『出題の意図・評価ポイント』

文系 模擬講義・レポート

- ※1 この『出題の意図・評価ポイント』についての質問、照会には一切回答しません。
- ※2 配点率は入試問題に記載してあります。

【出題の意図・評価ポイント】

大学で講義を受ける状況を想定し、その講義を受け身で聞き流すのではなく、積極的に理解し、発展的な学修をする基本的資質をはかることを目的とする。

具体的には、講義の内容を正確に聴き取り、メモを取る力とその内容の理解度を測る。また、講義を受けることで浮かんでくるであろう発展的な問いに関する資料を読み、複合的な分析を行う思考力や判断力、そして決められた字数の中で、的確に表現する力を評価する。

問1

講義の中で重要な情報を的確にメモをする力を測る。

問2

SDGs の日本の取り組みに対する評価に関する資料と模擬講義で説明された情報を関連させることで、その理由を考察し、制限字数内での的確に説明する表現力を測る。

問3

講義の中で示された、「アフリカの絶対的貧困」の事実を示すデータに関して、その理由を、新しい2つの資料と関連づけて考察し、制限字数内での的確に説明する表現力を測る。

問4

講義で取り上げたグretaさんの活動の具体例を、英文の演説の資料として提示し、その理解度と日本語で表現する力を測る。

問5

講義で説明された、「ソーシャルビジネス」に関して、その特徴を具体的な「ユニクロの社会貢献活動」の例と比較して考察し、制限字数内での的確に説明する表現力を測る。

令和3年度「志」特別選抜 入試問題『出題の意図・評価ポイント』

文系 総合問題 I

- ※1 この『出題の意図・評価ポイント』についての質問、照会には一切回答しません。
- ※2 配点率は入試問題に記載してあります。

【出題の意図・評価ポイント】

問題1の資料文は、「文化の受容」というテーマに関連した、評論文や新聞記事からなる3編の日本語で構成され、高校生の2人が、「探究学習」の一環として、それぞれの資料を理解していく過程を想定した会話文の中に、問いが含まれる形式になっている。それぞれの資料の内容に対する読解力、および3編の内容を融合した問題に対する思考力、制限字数内でまとめる表現力等を測る。

問題2, 3, 4は数学の内容の出題で、標準的な問題の出題により基礎事項の理解度を測り、論証に取り組む思考力を問う。

1

問1

標準的な漢字の知識を試すとともに、文脈の理解度を測る。

問2

資料1の主旨を理解し、下線部(1)を制限字数内で説明する問題。読解力及び表現力を測る。

問3

資料1の主旨を理解し、指定された語句を説明したうえで、下線部(2)の理由を制限字数内で説明する問題。読解力及び表現力を測る。

問4

資料2の主旨を理解し、下線部(3)を制限字数内で説明する問題。読解力及び表現力を測る。

問5

「文化の受容」についての3編の資料を関連づけて、下線部(4)に関してのアヤカさんの判断の妥当性を説明する問題。それぞれの資料を理解する読解力、資料を関連づけて考える思考力および制限字数内でまとめる表現力を測る。

2

2次関数に関する基本事項についての理解度を測る。

3

微分法に関する基本事項についての理解度を測る。

4

確率に関する基本事項についての理解度を測る。

2021 年度「志」特別選抜 入試問題『出題の意図・評価ポイント』

文系 総合問題Ⅱ

- ※1 この『出題の意図・評価ポイント』についての質問，照会には一切回答しません。
- ※2 配点率は入試問題に記載してあります。

【出題の意図・評価ポイント】

問題は、大問 3 題で構成し、それぞれの文章を読解する力、思考する力、および英語や日本語での的確に表現する力を問う。

1

問題文は、美の概念について心理学的な視点で書かれた英文である。

問 1

問題文中の下線部の内容を文脈から理解する力、与えられた英語の単語を用いてその内容を英語で思考し、制限語数内の英語での的確に記述する表現力を測る。

問 2

個人的な美の概念と対比した普遍的な美的事象の存在に対する筆者の主張を読み取る力、および制限字数内の日本語での的確に説明する表現力を測る。

問 3

問題文の意味的なつながりについての理解力、および英語の基礎的な語彙力や構文の知識に基づき、美の概念に対する心理と社会的地位に対する心理に関する筆者の主張を読み取り、日本語での的確に記述する表現力を測る。

問 4

一般的な art と区別した筆者独自の用語である“Art”の意味を、問題文全体の包括的な理解に基づき、制限字数内の日本語での的確に説明する表現力を測る。

2

問題文は、在宅勤務に関する英文である。

問 1

問題文の理解に基づき、在宅勤務の利点を日本語で簡潔に説明する表現力を測る。また、すべての労働者に対して在宅勤務を課すと仮定した場合の問題点をみずから論理的に考察する力、および日本語での的確に説明する表現力を測る。

問 2

「すべての労働者は在宅勤務をすべきだ」という論題に対して、前問で列記した問題点に基づいた反論を考え、論理的思考力および制限語数内の英語での的確に記述する表現力を測る。

3

問題文は、Sustainable Development Goals に関連する日本文と英文、およびそれに関して交わされた日本語の会話文である。

問 1

問題文を読んで、複数の文章を関連させて包括的に理解する力、意味的なつながりの理解力、および日本語での的確に記述する表現力を測る。

問 2

問題文を読んで、複数の文章を関連させて包括的に理解する力、意味的なつながりの理解力、および制限語数内の英語での的確に記述する表現力を測る。

問 3

提示された日本文の理解に基づき不完全な英文を完成させ、英語での的確に記述する表現力を測る。

問 4

就学以前の学びの重要性を記した英文の読解力、および制限字数内の日本語での的確に説明する表現力を測る。